

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット コスモス)

事業所番号	2794400057		
法人名	ヒューマンライフケア		
事業所名	ヒューマンライフケア城東の湯グループホーム		
所在地	大阪市城東区東中浜4-2-7		
自己評価作成日	平成31年1月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の自由を尊重するためにタイムスケジュールを作らず、入居者様の望むライフスタイルを支援しています。入居者様が楽しんで生活できる様に、日ごろからスタッフと一緒に散歩やテラスでのお茶会等のレクリエーションを実施しています。社内研修や、拠点内でのミーティングを実施しより良いケアを提供できるようにしています。ふれあい喫茶を開催する等地域に根付いた施設運営を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業母体のヒューマンライフケア(株)は、日本全国180事業所にて幅広い介護サービスを展開している。当事業所は平成22年3月に開設されたグループホームでデイケアを併設している。大阪市城東区の住宅街の一角にあるが、平屋で中庭にテラスのあるアットホームな雰囲気のユニット型の介護施設である。中庭でバーベキュー、夏には花火、お月見等を楽しむこともある。食事についても、利用者の希望を大切にイベント食やおやつ作りを職員と一緒にやっている。利用者の誕生日は、その人が主役で誕生月の人をまともないで個々の誕生日に、手作りのケーキを用意し当人をみんなで祝っている。地域との連携よろしく地域自治会主催の行事にも招待され、餅つき、花見、運動会などに参加し楽しむことがある。法人の理念のごとく「笑顔」と「こころ」いつでも人が真ん中が貫かれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・安心と満足の提供・信頼の確立・生き生きとした生活・地域社会と共にという私たちが大切にしている事を理念としている。事務所、玄関、各ユニットに掲示している。	事業所独自の理念は、玄関、事務室、各ユニット、相談室に掲示され訪問者の目につくようになってきている。会合の折には職員間で復唱し周知徹底している。常に振り返りをするともに介護ケア時に生かされるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加させて頂いている。買い物は歩いて行ける範囲で行っている。	地域ボランティアのオカリナ、三線、ピアノ奏者を迎え、利用者は音楽を共に楽しむことがある。地域の自治会にも加入し回覧板(情報)も回ってきている。自治会行事(餅つき、避難訓練)に参加したり、ふれあい喫茶に出向く等、日常的にいろいろな形で地域の一員として住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	デイサービスにてふれあい喫茶を開催している。地域の行事に積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見を取り入れ、業務の改善、向上につながる様取り組んでいる。写真で行事の報告をし、次月からの予定、ひやりはつとを報告している。	運営推進会議は偶数月の第三金曜日18:30から定例会とし年6回開催されている。事業所からの報告・連絡事項、検討事項の協議がされ会議録については公開し、家族へ発送のお便利にも同封している。会議メンバーは地域包括支援センター職員、自治会長、家族、職員、で構成されている。	構成メンバーに自治会長と共に地域の民生委員や婦人会の代表、知見者(福祉関連関係者)、利用者なども参加要請し、会議の内容・情報交換に広がり親近感の幅を広げるよう、声掛けの努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員、町会長、ご家族様に運営推進会議に参加して頂き、情報提供をして頂いている。	運営推進会議のメンバーや行政の保健福祉課、生活支援課の担当者とは綿密な報告・連絡・相談を行っている。双方向の情報交換を基にケアサービスの円滑化と共に協力関係構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について2ヶ月に1度身体拘束廃止委員会議を行って。玄関の開錠に関しては家族様からの反対もある。各ユニットへの行き来は自由である。	入職時に法人作成の冊子「スタッフノート」を配付している。福祉事業に携わる職員にとって必須の内容が網羅され研修時にも繰り返し活用している。2か月に1度は管理者が講師となり身体拘束廃止委員会を開催し、スピーチロックも理解している。利用者の安全上、玄関は施錠しているがユニット間は自由に往来、中庭にも出入りでき閉塞感はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中でどの様な事が虐待にあたるのか、職員内で共有し、話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については家族様対応にて行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間を取り入居者様や家族様の不安を取り除く様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に要望や助言を頂いている。家族様と積極的にコミュニケーションを取る事を心掛けている。あまり面会に来られない方には、お電話やお手紙等で普段の様子をお伝えしている。	利用者とは日常の会話より、家族とは面会時に情報交換・意見交換するなど要望を聞き運営に反映させている。面会に来られない家族には電話や手紙で報告・連絡をしている。施設に対する家族の意見についてのアンケートでは感謝の声が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい、環境作り。連絡ノートを活用し、意見や提案を確認し改善する様取り組んでいる。	毎月イベントが実施され、職員の参加人数の多い日を利用して定例職員会議を開催している。また各ユニットでも2カ月に1回会議を持ち職員の意見や提案を聞く機会となり運営に繋げている。管理者は話しやすい雰囲気づくりを心がけ、職員間のコミュニケーションは良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を職員が目にする場所に置いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部での研修をお知らせし、積極的に参加できる様声掛けをしている。又、新入社員については、日報を記入してもらい、不安に思う事等を確認している。又社内でのOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内での会議にて情報共有を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様と接し入居者様から要望等が聞かれない場合は家族様から話を聞く様にして、入居者様の気持ちを受け止めていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様と家族様の思いの違いやこれまでの関係を理解し、受け止められるよう入居者様だけではなく家族とも信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要求事項に応えられる能力をホームが有しているのかの確認を行い、他サービス利用も含めて検討し対応に努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般などできる事は職員と共に生活を送って頂けるようにしている。その人に合わせたケアを行っている。ご本人ができる事を探し、感謝の意を忘れない様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疑問や要望があれば気兼ねなくおっしゃって頂ける関係作りに努め、家族様にもできる範囲での協力をお願いしている。家族様より協力の申し出もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されたことで今までの関係が途切れる事のないよう出来る限りの支援を行っている。	馴染みの友人には訪問をし易いように働きかけている。時には利用者の家族より〇〇さんが行きますとの電話を受け対応することもある。数年前までは馴染みの理・美容室に出かけていたが、今は出張での理・美容を受けている。家族と一緒に墓参りや法事で出かける利用者もいる。馴染みの人や場との関係継続支援を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く暮らせる様、日々の生活のなかで協働しあえる様支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、出来る限り支援を行っていく。又、退去後も関係が途切れない様積極的にコミュニケーションをはかる様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常時希望や意向を聞けるようにしている。ご本人様が何を望まれているか分からない時は家族様にも話を聞いている。今後の事についても何人かの方と話をしている。	日ごろのコミュニケーションより一人一人の思いや意向を把握するようにしている。困難な場合は職員でミーティングを行い検討したり、家族に尋ねることもある。知りえた情報は申し送りや日誌に記録し職員間で共有の上、少しでも本人本位となるよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話やご家族からの聞き取り等で得た情報を活かし対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の有する能力を把握し、日々の申し送りの中で職員間で情報を共有するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット合同で申し送りを行い 利用者の変化に対しての情報の共有を図っている。定期的にカンファレンスを行い、利用者だけでなく家族の思いも反映できるよう取り組んでいる。	居室担当制をとっている。医療関係は往診記録、訪問看護記録、家族の希望を参考にケアマネージャーが核となり関係者でケアカンファレンスを開催している。短期3ヶ月、長期は6ヶ月を目処にチームで介護計画の作成と見直しを行い職員は共有している。関係者に説明し介護実践に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録を残し状況を把握している。日々の記録を元に情報の共有化を図り介護計画の見直しに活かしている。モニタリングを全スタッフが記入している。通院の際などに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズについては出来る範囲で対応をしているが問題点も多い。臨機応変に対応できるように努力している。地域包括の方にも協力していただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に参加頂き、三味線やウクレレ演奏会等のイベントを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様のニーズに合わせ、内科や精神科の訪問診療を受けられている。又、訪問マッサージ、訪問歯科、訪問看護、訪問リハビリもある。かかりつけ医と密に連絡を取り合っている。	従来からのかかりつけ医を尊重しているが現在の受診者は一人で、他の利用者は協力医療機関の内科医の往診を月に1~3回受けている。歯科医は希望者と異常時に往診を受けている。マッサージ、リハビリは希望者のみ診療を受けている。他科受診は家族が同行し受診結果の報告を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受けられている。又、協力病院に24時間相談できる関係が築かれている。訪問診療とは違う日でも往診して頂ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際、定期的に病院に訪問し入居者様との関わりが切れないようにしている。病院関係者や家族様との情報を共有する事で退院時の受け入れがスムーズに行くように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応及び看取りケアに関する指針を明確にし、その上で事業所として出来ることを説明し、支援している。	「重度化対応及び看取りケアに関する指針」は入居当初に利用者および家族に説明・同意捺印を受けている。経過中に異変をキャッチした折には往診医・看護師・家族・職員でカンファレンスを持ち、今後の方針を決め対応している。所内研修を重ね、平成29年、30年において当事業所で看取り体験があり葬儀にも参列している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時、対応についてはすぐに対応できる様、目のつく所にマニュアルを掲示し、指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回施行している。夜間を想定した訓練も行っている。運営推進会議でも議題に挙がっている。	年2回の防災訓練には消防署立ち合いで地域の自治消防団員も参加で行われている。地域の自治会関係者との交流は良好で応援体制は心丈夫とのことである。備品備蓄の用意もある。夜間想定訓練や自然災害対応に課題があり不意のミニ訓練が必要と管理者は認識している。いざの折に短時間で事業所に急行できる職員が数名在籍している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を敬い、日々の声掛けの仕方等、スタッフ間で話し合い声掛けを行っている。	利用者の人格尊重、プライバシーの確保を念頭に職員は言動に留意している。居室訪問時にもノックは3回とか声掛けにも配慮したり、肌の露出は最小限となるよう入浴・排泄時の支援を心がけている。職員の不適切な対処場面がみられた時にはお互いに注意しあっている。個人情報関係の書類は書庫に施錠し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が答えやすい様な問いかけをしたり、筆談にてコミュニケーションをはかるなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースにあわせ、タイムスケジュールを作らず、起床、入床を自由に行って頂き、それに合わせ食事を提供する等無理強いせず、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、その方が選ぶ物に更衣していただき、顔そりや髭剃り爪切り等声掛けや介助を行っている。毎月訪問美容にきて来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月何かしらのイベントを企画メニュー決めや買物を職員と共に行っている。季節ごとの行事を大切に季節感のある料理を提供している。誕生日にはご本人の希望するものを提供する。	朝食は事業所で夜勤者が準備し、時間は自由に飲食している。昼・夕食は配食会社の調理済みのレトルトパックを湯煎し、提供している。利用者の好みはイベント時(誕生日・お花見弁当等)に考慮され、おやつも利用者のできる範囲の共同で作り飲食を楽しんでいる。職員は食事介助に徹し、職員の休憩時間に同じものを飲食し状況は把握できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を確認している。食が細い方には適宜補食を提供している。個人ごとに体重測定を週1回月1回で行っている。夕方の申し送りで一日の水分量を把握している。水分拒否がある方には、ゼリー等代替を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時毎食後口腔ケアを行っている。定期手に歯科往診を受けられている方もいる。又、口腔衛生に関する内部研修も始めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを把握し、その方にあつた誘導を行っている。	排泄自立の利用者は18人中半数、オムツ使用者は3人で残りの6人はリハビリパンツ使用者となっている。夜間も2時間ごとにオムツ着用者には失禁の確認と交換をし汚染防止に配慮している。排泄時の転倒防止の見守りと共にトイレでの自立排泄に向け24時間支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の促しや、下剤をなるべく使用しないようおやつ等(ヨーグルトやブルーン)にも気を付けている。体操の声かけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴の時間を定めず、無理強いしない様声掛けしている。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等、楽しみながら入浴できる様支援している。希望者は夜間入浴を行っている。冬場はヒートショックに気をかけて行っている。	入浴前後のバイタルサインチェックの上、基本は週に2、3回の入浴としているが、中に毎日入浴希望者と夜間入浴希望者にも対応している。季節湯(柚子湯・菖蒲湯)などは数日間続け楽しんでいる。中に入浴拒否の人には職員交代やタイミングを見て誘導し身体の清潔に務めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間等は特に決めておらず、生活習慣や状況に応じ気持ち良く睡眠できるように支援している。夜間スタッフや他利用者との団らんを楽しみにされている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の入居者様にあった服薬介助を実施し、状態の変化に留意している。チェック表を利用し服薬ミスがない様に複数のスタッフで確認しながら配薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	百人一首、唱歌等、皆様で楽しむ物もあれば、ドリルや塗り絵等それぞれが自由に楽しめる様支援している。お手伝い等、役割を分担して協働できる様声掛けをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーや薬局に買い物に行ったり、近くの公園への散歩を楽しまれている。テラスにてお茶会を実施し少しでも外の空気に触れられるようにしている。外出拒否の方もおられる為個人差はあるが、希望に添って外出の機会を作っている。	近隣のスーパー、薬局、公園、施設周辺の散歩に出かけたり、事業所の中庭で寛いだり、テラスでお茶会やバーベキューをする等、常に外気に触れる機会を大事にしている。加齢とともにADL機能の低下で外出拒否の人もいるが、併設デイケアの送迎車を使用しドライブに行くなどの創意工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は事業所で管理しているが、いつでも使えるように話をしている。ご利用者の希望にそって、スーパーで買い物や行事に参加される際、自由に使って頂ける様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にかけられるよう支援している。携帯電話を使用している方には操作時介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間が作れるように季節ごとに模様替えを利用者と共に行っている。季節を感じて頂ける様生花を飾っている。人形やマスコットを置くことによって、癒しの空間作りを行っている。	敷地も広く平屋づくり、共有空間は広くゆったりしている。ガラス張りの窓も大きく採光は豊かで明るい。四季を通して屋内の換気にも留意している。日中多くの時間を過ごす食堂兼リビングにはソファの設置、季節を感じる季節の展示品、中庭前の空間には雛段飾りと居心地よく過ごせるように配慮され利用者は穏やかな表情で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット間の施錠をしていないので思い思いの場所で過ごして頂いている。障害に応じソファなどを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活を継続して頂ける様なるべくご自宅で使っていた家具を持ち込んで頂いている。宿泊できる部屋は用意していないが布団は貸し出しできる。	居室は洋室でエアコン、カーテン、クローゼットが設置されている。ベット、タンス、仏壇など入居前より使い慣れた家具・調度品が家族の協力で搬入されている。家族写真、利用者の手作り作品が飾られ、その人らしい個別性を重視した雰囲気の中で居心地よく過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人のペースを大事にして過ごせる様支援している。		